

トンフィーダー®

# コントロールフィーダー

MK37-04型

養豚給餌を科学し、飼料代節約・効率アップ!



▲NH-R600・MK37-07

## 特長

- 現状での効率向上をねらう上で、誰がやってもあまり差が出ない機械よりも、給餌システムの組み方や運転方法等による給餌の仕方の違いにより、効果が大きく望める給餌装置の方が良い・・・そんな給餌装置が、ナカチック・コントロールフィーダーです。
- これからの養豚経営の給餌・飼育管理はこうなるであろう!と考える、経営効果を最大限に上げる様に、給餌方法を科学的に分析・解明し、豚の採食に合わせて一頭ごとに定量を自動給餌するシステムです。
- 一頭当りの一日分の設定給餌量を数回に分け、さらにその一回分の量を数分おきに連続して定量給餌する方法で、とても人間では出来ない精密な飼育管理が出来ます。

### 【MK37-04 仕様】

型 式	MK37-04型
ホッパー容量	約3.1kg
切 出 速 度	13~18g/秒
運 転 時 間	0~10秒
運 転 方 式	ON/OFF断続運転
給 餌 回 数	任意設定(カウンター)
ブリッジ対策	振動板装備(SUS)
モ ー タ ー	24VDC 3W
電 源	単相AC100V

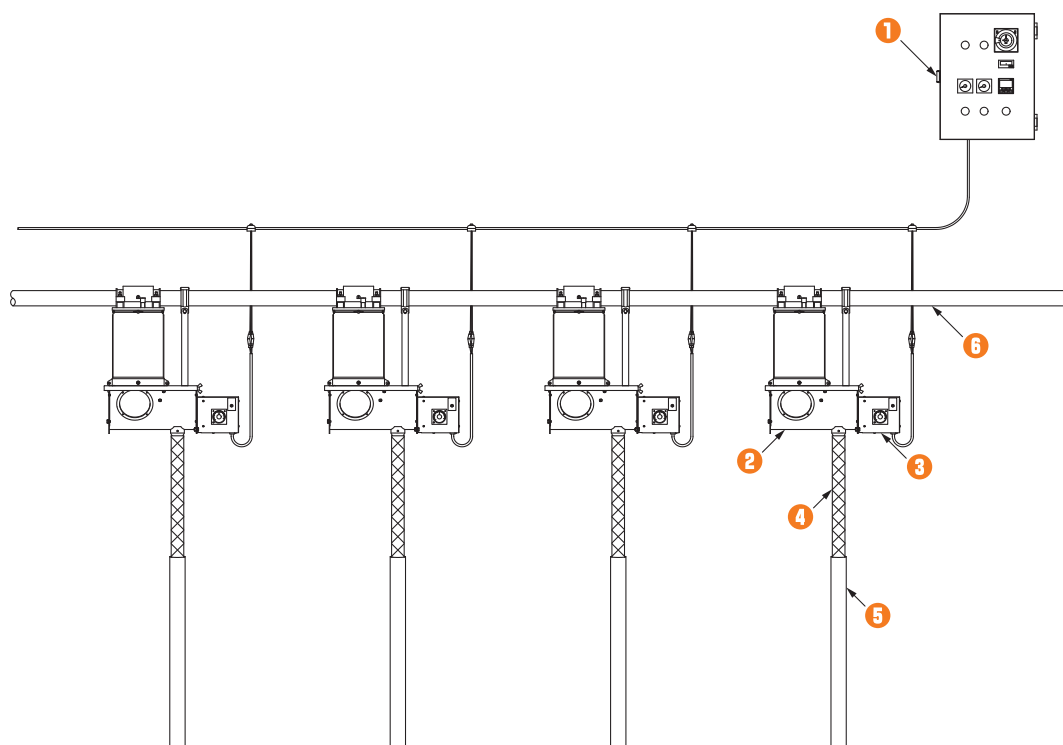
# トンフィーダー® コントロールフィーダー MK37-04 型

## 【採食時間】

●採食時間を75g/分とした場合、1回に2250gの給餌をすると30分間食べ続ける事になります。また、750g給餌では10分間、75gでは1分間の採食時間となります。

●これにより言える事は、**2250g給餌では、30分間もの長い時間帯に最大2250gもの飼料が飼槽の中にある事になります。**これでは飼料の飛び出し等による「ムダな飼料」を防止する上で良くありません。一方1回75gの給餌では、1分間という短時間の採食時間である事と、飼槽の中には少量の飼料しかないので「ムダになる飼料」を防止出来ます。

## 【コントロールフィーダー・システム構成】



部 品 名	機 能
① 中央コントロールBOX	コントロールフィーダーの電源を制御するコントロールBOXです。
② コントロールフィーダー本体	飼料が入る透明なホッパーと下部には切出用のスクリュウがあります。
③ コントロールBOX	コントロールフィーダーを制御するBOXで、内部にはタイマーと駆動モーターがあります。
④ ガイドホース	飼料のガイドホースです。(φ40×φ32)
⑤ ガイドパイプ	飼料のガイドパイプです。(φ48.6×φ1.2m)
⑥ 飼料搬送機パイプ	C-38 (φ38.1) / F-50、C-50 (φ48.6)

※カタログの中の仕様及び外観等は予告なく変更することがあります。予めご了承ください。



資料のご請求、製品に関するご意見・ご質問は下記までお問い合わせ下さい。

株式会社 **中嶋製作所**

中嶋製作所

検索

<http://www.nakamatic.co.jp/>



代理店

【本社・工場】〒388-8004 長野市篠ノ井会33番地  
TEL.026-292-1203(代表) FAX.026-293-1611

【南九州営業所】〒889-1301 宮崎県児湯郡川南町川南20230  
TEL.0983-27-0210(代表) FAX.0983-27-0207

【東北営業所】〒020-0621 岩手県滝沢市大崎94番地444  
TEL.019-688-1815(代表) FAX.019-688-1816